新宿区喜久井町1 (当時:牛込馬場下横町)

生誕 100 年を記念して建 てられた記念碑が建つ(弟 子の安倍能成の筆によ る)。喜久井町という町名 は、漱石の父・直克が夏目 家の家紋「井桁に菊」にち なんで名付けた。



なつめざか 夏目坂

新宿区喜久井町 (誕生の地の前)

馬場下から南東へ上る坂。 漱石の父・直克が命名。



早稲田大学

馬場下町

4

来迎寺

3

感通寺

喜久井町

正法寺

若松町

新宿区早稲田南町7(当時:牛込区早稲田南町7番地)

5 新宿区立漱石山房記念館(終焉の地)新宿区指定史跡

諏訪通り

3 小倉屋 新宿区馬場下町3 (誕生の地隣り)

中山安兵衛(後の赤穂浪 士堀部安兵衛)が、高田 馬場の決闘に駆けつける 際、この店で升酒を飲ん だと伝えられる。裏手に

漱石の生家があった。

鶴巻図書館 🗌

鶴巻南公

早稲田小

漱石山房

しゅうえん

早大通り

特別出張所

5

記念館

せいかんじ 誓開寺

新宿区喜久井町 61

『硝子戸の中』で「西閑寺」、 『二百十日』で「寒磬寺」 として登場するお寺。区 内最古の梵鐘があるが、 作品内で書かれている 「鉦」とは別のもの。

弁天町

宗柏寺

矢来公園

南榎公園

┦─済松寺

10 藁店 (地蔵坂)

(当時:牛込区肴町)

神楽坂から袋町に上る地 蔵坂界隈は、かつて藁店 と呼ばれた。ここにあっ た和良店亭(わらだなて い)は、色物講談を得意と する寄席で、落語好きの 漱石が足繁く通った。

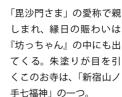
11 田原屋

新宿区神楽坂 5-35 (毘沙門天の西)

菊池寛や佐藤春夫、永井 荷風らも通った牛鍋屋。 のちに果実屋となり、大 正時代初めに洋食屋に なったが、平成14年 (2002) に閉店。

ぜんこくじ びしゃもんてん 12 善国寺(毘沙門天)

新宿区神楽坂 5-36





歩道

6 穴八幡宮

新宿区西早稲田 2-1-11

夫人・鏡子が、漱石の虫封 じにお参りした。冬至から 節分まで頒布される「一陽 来復しの御守で有名。



早稲田大学

新宿区西早稲田 1-6-1

漱石は、明治 25年(1892) から同 28年(1895)まで講



8 帰国後住んだ家

東西線 神楽坂駅

la kagu

新潮社

箪笥町

8

早稲田通り

牛込北町

牛込郵便局

牛込警察署

矢来 能楽堂

新宿区矢来町3 (当時:牛込区矢来町三中の丸)

明治 36年(1903) 1月英国より帰国後、夫人・ 鏡子の実家中根家のはなれに住んだ。

13 相馬屋

白銀公園

かぐらざか 神楽坂

新宿区神楽坂1~6丁目

B

新宿区神楽坂 5-5

神楽坂通り

9

D

見番横町

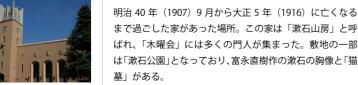
江戸時代に創業した文具店。漱石もここの 原稿用紙を使用した。(橋口五葉デザインの 竜頭をあしらった漱石山房原稿用紙とは別 のもの。) 現在も「相馬屋製」の原稿用紙を 手に入れることができる。

神楽坂下

☆ トイレ

1、休憩場所

師をつとめた。



市谷柳町

甲武鉄道牛込停車場の開設で発展、山の 手随一の繁華街として賑わった。多くの 作品に登場し、お見合いした漱石と鏡子 がすれ違ったのも神楽坂だった。

14 東京理科大学(旧東京物理学校) 新宿区神楽坂 1-3

東西線・有楽町線

『坊っちゃん』の主人公は東京物理学校出身という設定。 明治39年(1906)に建築された校舎が復元され現在「近代 科学資料館」として公開されている。館内では「計算機の 歴史」を中心とした興味深い展示を見学することができる。 (入館無料)